

# 令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人 水野学園  
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪  
学校関係者評価委員会

学校法人 水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪「学校関係者評価委員会」は、令和元年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 開催日 令和2年6月初旬(郵送にて資料送付の上実施)

2. 学校関係者評価委員

・ 関連業界等関係者

藤本 久幸 様  
山内 秀夫 様  
松本 薫 様  
清 順一 様

大阪ジュエリー工芸協同組合  
大阪ジュエリー工芸協同組合  
一般社団法人 日本時計輸入協会  
株式会社ウォッチラボ

理事長  
副理事長  
専務理事  
代表取締役

3. 水野学園からの参加者

松山 英一  
村瀬 熱紀

学校法人 水野学園 総務部長 (学校長代理)  
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪 学科長

4. 評価方法および評価点について

- ・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。
- ・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。  
★評価点基準・・・ 4=適切 3=ほぼ適切 2=やや不適切 1=不適切

5. 評価項目ごとの学校関係者評価

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		評価点平均	3.67
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで配布・学生周知が進められている。前年度から具体的検討が行われていた3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）をまとめ、HPにて公表した。	
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	3つのポリシーは昨年設定され、学校HPを通じて公開されているが、まだ教職員間に十分に浸透しているとは言えない。2020年度は期首、および期末に3つのポリシーと照らし合わせてカリキュラムの立案と検証を行う予定である。また、HPだけではなく就職用パンフなどにも記載をし、ガイダンスを通して入学検討者および在校生に広く周知していく予定である。			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念は非常に大切な部分なので、教職員の方含め学校に係る方への浸透は重要だと思います。</li> <li>・コロナの影響もあり、より厳しい環境と思われるが、粘り強く取り組んでもらいたい。</li> <li>・自己点検、課題をしっかりと見つめ、今以上の改善に期待しています。</li> <li>・ジュエリー・時計が世の中でどのような役に立っているのか、効用なども盛り込まれていると思いますので、より深く追求していただきたいと思います。</li> </ul>			

項目 2	学校運営		評価点平均	3.83
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。	
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。	
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年6回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。	
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。	
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。学生管理においては(株)サブネットの「School Leader」を利用し、大幅な業務効率化が図られている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、しっかりと実行されていると評価できる。</p> <p>将来における既存コースの学生減も視野に入れながら、新学校の開発に着手している。健全な学校運営を維持する上で新規プロジェクトは必然であり、学校の可能性をさらに広げるものとして実現に向けて検討中である。</p> <p>水野学園として新学校の具体的な校舎設計、アドバイザーの選定を実施してきた。また、大阪校では自転車メカニックコースの募集を展開し、定員人数に達する募集に成功している。また情報システムについては、学校と学生の直接的で双方向的な情報交換を行えるようにアプリケーションの導入を準備した。2020年導入。</p>			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に世間に目を向け、新しいコースの設置等努力をされていると思います</li> <li>・生活様式が大幅に変化する中、学生の将来、職業に対する価値観も大きな変化の時流に成ってくるとおもいますので、人間力向上の教育・社会に愛される人物像教育が重要になってくると思います</li> <li>・学校と学生、そして地域社会の三宝良しとなるよう取り組んでもらいたい。</li> </ul>			

項目 3	教育活動		評価点平均	3.83
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2019年度も見直しを行った。	
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	定期的に外部講師による教員研修を実施し、授業や指導方法の改善点を指摘し相互評価を行っている。また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生による評価も教員にフィードバックした。	
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学園内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。	
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。	
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。	
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。貴金属装身具技能検定については放課後にゼミを実施。今年度は3級21名、2級13名が受験をした。時計修理技能検定に関しては授業内にて指導をしている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>今年度も同様に教員の指導力研修においてはビジネスコンサルタントに協力を仰ぎ、本校の状況に合わせたクラスマネジメントのケーススタディを作成実施していただいた。特に今年度は新人だけでなく、ベテラン教員も新人のブラッシュアップをサポートしながら自身のインストラクションを見直す機会を作った。また、学生の学習目標を高めるため、学生による学生のための学習発表会(PRESENTATIONS!)を実施した。学科を超えて仲間の成長をたたえ合い、学びの広がりを確認できたことは教員にとっても刺激的であった。</p> <p>＜課題・今後の改善方策等＞  学生による学生のための学習発表会(PRESENTATIONS!)など、学生の成果を保護者にも伝える機会をもっと増やすべきであるとの意見が多く出た。今後はオンラインを含め保護者の参加を広く視野に入れ実施していきたい。</p>			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果を保護者に伝える場がある事はとても良い事なので、もっと多くの機会を増やすことが大切だと思います。</li> <li>・保護者や友人(後輩)達にも伝えていただきたい。</li> <li>・教員の指導力向上は継続して努力していつてもらいたい</li> </ul>			

項目 4	学修成果		評価点平均	3.50
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2020年3月31日現在、ジュエリー・ウォッチメーカー両コースの求職者就職率は100%(昨年100%)で、昨年に引き続き両コースとも100%を達成できた。	
	15	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースにおいて例年指導している貴金属装身具製作技能検定の受験結果は、2級合格率71.4%(昨年7.6%)、3級合格率84.8%(昨年81.0%)だった。またウォッチメーカーコースにおける時計技能検定は、2級合格率38.5%(昨年91.7%)、3級合格率は93.3%(昨年94.4%)となった。	
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>2019年度も、前年度に引き続きジュエリー・ウォッチメーカー両コースでの就職率100%を達成できた。また2019年度は大阪校では2回目のリクルートイベント「HELLO OSAKA」を開催し、前年度36社より多い41社の企業様にご参加いただき、このイベントをきっかけに10名(ジュエリー6名、ウォッチ4名)の内定者を出すことができた。</p> <p>資格取得に関して、トレーニング方法を見直し、2019年度貴金属装身具製作技能検定は合格率を向上させることができた。</p>			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュエリー2級合格率は昨年を大幅に上回り、技能・技術が高かった</li> <li>・就職率の100%は、逆にどこかに負荷が掛かっているかと思えます。</li> <li>・国家検定の合格率に波があるのでもう少し安定できるようにしたい。</li> <li>・学校の性格から見て、就職率100%は重要な成果であり、高く評価できる。時計技能検定は合格率を高めていただきたい。</li> </ul>			

項目 5	学生支援		評価点平均	3.83
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催のキャリアガイダンスを卒業前年度12月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導した。企業就職希望者に対しては、2月以降進路個別面談を通じ就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行った。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応している。	
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(付帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を進めている。一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている(2019年度は実績なし)。	
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通じ、より細かい学生の相談体制を構築している。	
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて学務課にて個別相談を行っている。	
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施した。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。	
	22	保護者と適切に連携しているか	2019年度も、7月と12月に、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付した。その際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「Volare」という小冊子を作成し同封している。	
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。2017年度に導入した報奨制度「同窓会賞」は継続しており、独立開業や再進学のための支援となっている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価している。また、専門課程卒業生や在校生のキャリアスクールへの入学者が5名おり、2020年度も増加する傾向であることから専門課程学生の新たな学びの場として定着しつつある。			
【関係者評価・意見等】	・2020年度はコロナの影響で困窮する学生がより多く出ることが危惧されるので、一段ときめ細かい対応をお願いしたい。			

項目 6	教育環境		評価点平均	4.00
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・student lounge・B1labo、ギャラリーなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。	
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	学則カリキュラムにおいて、学年全コースに「学外授業」を義務付けており、毎年、実施している。実績は以下の通り(抜粋) ジュエリー＝美術館見学(京都国立近代美術館/清水三年坂美術館/大阪現代美術館)、IJK見学、TASAKI様店舗研修、ショップリサーチ(心齋橋・難波周辺) ウォッチ＝ショップリサーチ(心齋橋・難波周辺)、明石天文学館見学、企業・店舗・工場見学(OMEGA/スウォッチグループジャパン様/ブライトリングジャパン様セミナー/日新堂様セミナー・販売研修)	
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	放課後を利用した学びの場の設定や海外研修やイベント参加など、多様な教育の広がりという点では環境は良くなってきている。年間5回にわたって放課後に開催した「ラーニングcommons」では、学科の枠を超え、自身の意見を交換する場として多くの学生が参加した。また、在校生向けのアプリケーションの開発により、以前に比べて学校情報が入手しやすくなった。また、学内Wi-Fiの拡充でオンライン授業に向けた学習環境は整いつつある。			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業の拡充が今後も重要になってくるので、ここの充実を計っていただきたい。</li> <li>・非常食はもう少し量が増えるとさらに安心です。</li> <li>・学外学習の機会および学習環境の整備はより充実していくよう希望する。</li> </ul>			

項目 7	学生の募集と受け入れ		評価点平均	4.00
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。	
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。	
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>例年通り、適正に実施されている。</p> <p>18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。 中国、韓国、台湾のほか、ベトナムやインドネシア・マレーシアなど9つの国や地域から留学生を受け入れ、過去最高となる50名の留学生(在校生148名のうち33.8%)が本学で学んだ。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>・今後はコロナの影響も残ると思われるが、長期的な視点で取り組んでもらいたい。</p>			

項目 8	財務		評価点平均	4.00
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことにより、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。	
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決裁を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。	
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。 例年5月に、監事2名による会計監査を行っているが、2019年度決算については、新型コロナウイルスによる国税庁の通達を踏まえて、6/末を目途に完了する予定とした。	
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。 2019年度決算の公開は、上記会計監査後にすみやかに公開することになっている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 9	法令等の遵守		評価点平均	4.00
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。	
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。	
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。	
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 10	社会貢献		評価点平均	4.00
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	10月に開催した学園祭「MUG」では、約770人の来場があった。加えて6月には「時の記念日イベント」を開催、8月には2020年度新たに開講する自転車メカニックコース開講記念イベントとして「CYCLE STUDY」を開催し、自転車業界より多数ご参加いただいた。また「Creative CARAVAN」では、各学科から選抜された22名の学生が大阪府内各所で一般の方を対象にジュエリー制作のワークショップを開催した。いずれも学校での取り組みを社会に発信するとともに、特に学園祭には近隣住民の方も多数ご参加いただき、地域の活性化に貢献した。また、大阪ジュエリー工芸協同組合様および大阪府職業能力開発協会様にて実施される国家技能検定「貴金属装身具」部門の実技試験会場として大阪校の教室設備を活用していただいている。	
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	国際交流財団のボランティア情報を掲示し、学生へ伝達し奨励できた。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	今年度は新コース自転車メカニックコースのイベントを初めて実施した。ボランティア活動はまだ告知を続けているが、今後は社会貢献のあり方として積極的に学生へ告知していきたい。			
【関係者評価・意見等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生個々の能力を最大限に引き出して世の中に広める活動として素晴らしい実践だと感じます。</li> <li>・ボランティア活動を社会・地域の為に大いに進めてほしい。</li> <li>・社会に奉仕する心の大事さを学んでほしい。</li> <li>・社会貢献およびその情報発信は重要なので、重点的に取り組んでいくべきと考える。</li> </ul>			

項目 11	国際交流		評価点平均	3.83
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	留学生担当を教務・広報内にそれぞれ配置し、東京校「留学生センター」と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。また、留学生を受け入れる企業様のために就労ビザ取得のサポート業務も実施している。適切な管理は継続されており、2019年度も入国管理局より「適正校」の認定を受けている。	
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	毎年恒例となっている海外大学の交換留学について、2019年度は春期(4月～7月)に2名(フィンランドおよびルーマニア)からの交換留学生を受け入れた。また5月にはオランダのジュエリーアーティストBeppe Kessler氏のワークショップを開催。大阪校から18名、東京校からも6名が参加した。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2019年度はクリエイターを多く輩出しているヨーロッパの国への研修旅行、ウォッチメーカーコースではスイスへの研修旅行も企画し学生が国際交流を行なえる環境を揃えている。また、2020年度はコロナウィルス感染拡大の影響で自粛しているが、今後も国際的な視野・感性を養うことを目的として外国から多くの作家・アーティストを招聘し、セミナーやワークショップの開催を実施していく。			
【関係者評価・意見等】	・今後もコロナの影響が残ると思われるが、できる範囲で充実させていってほしい。			